

事業所名 グループホームまほろば
(クリックすると事業者の情報にリンクします)

日付 平成20年10月 3日

評価機関名 ㈱東京リーガルマインド
(クリックすると評価機関の情報にリンクします)

評価調査員
A:現職 社会福祉法人生活指導員、介護事業所管理者兼介護支援専門員
資格・経験 身体障害者職業生活指導員、社会福祉主事、ホームヘルパー2級、介護支援専門員、難病患者等ホームヘルパー
B:現職 介護事業所管理者
資格・経験 介護福祉士、介護支援専門員、精神障害者ホームヘルパー

自主評価結果を見る (事業者の自主評価結果にリンクします)

評価項目の内容を見る (評価項目にリンクします)

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)
(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

講評

全体を通して特に良いと思われる点など(記述)

- ・JR上道駅より、北へ約1キロほど行った小高い丘陵地にホームはある。特別養護老人ホームを中心とした複合施設の中にホームはあり、山とたんばに囲まれた静かな環境の中、時間がゆっくりゆったりと流れているようである。
- ・勉強会や会議を度々開催し、新しい認知症ケアに関する知識を全職員で共有しており、管理者・職員一同、理念の具現化に向かって努力している姿がうかがえる。また、職員が働きやすいよう、職場の環境も整えている。
- ・入居者の人格を尊重した丁寧な接遇であり、入居者個々の状況に合わせた介助を行っており、入居者の表情も明るい。
- ・センター方式を導入したことで、今までのアセスメントでは掘みにくかった入居者の情報をしっかりと把握することができ、入居者・家族に対する理解も深まっている。
- ・ホームからは、廊下伝いにヘルパーステーションに繋がっており、ヘルパーステーションを通じて他の施設へも行くことができ、複合施設の利点を上手く活用して入居者の生活を支援している。
- ・理事長・施設長は、必ず職員会議に出席し、職員の希望・要望をよく聞き、風通しの良い環境作りにも努めている。また、年2回、人事審査を実施して職員の適正を把握し、各職員の能力をより活かせる配慮を行い、ケアサービスのレベルアップに努めている。

特に改善の余地があると思われる点(記述)

特に改善すべき事項はない。
・創始者が目指した「まほろば」の実現に向かい、地域福祉の拠点として、またグループホームの先駆けとして認知症介護のリーダーシップを取っていかれることを切望する。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か(記述) ・管理者は、入居者にとってホームが常に安全な生活の場であるためには職員間の信頼関係を根ざしたゆとりのある介護が必要と考え、職員の協調を図るよう努力している。 ・「至上の楽園を目指す」という理念のもと、介護技術のハードルをより高く設定し、理事長・職員共に力を合わせ、今以上のサービスをどうすれば提供できるかを考えている。また、医師や様々な分野の講師を招き、年4回、夕方より勉強会を開き、常に研鑽を重ねている。 ・色々な所へ出かけて社会参加をさせていただきたいという想いから、月1回の外食を2回にする等外出の機会を多く作るように努めている。 ・地域に開かれたホームを目指すと共に、家庭的な雰囲気の中でその人らしく過ごし、個々の生活を大切にしながら入居者が安心して暮らせることを心掛け、いかに安らぎの場所を提供するかを目標に努力している。 ・休日に職員会議等に出席する職員には、休日出勤手当等を支給する等職場の環境を整えている。全職員が情報を共有し、どの職員にも発言の機会を設け、グループホームとしてのレベルアップを目指している。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か(記述) ・全室にコープソーラーが付けられており、入居者が安心し、落ち着いて暮らせる環境作りを行っている。 ・個々の人格を重視した介助を心がけ、腰が曲がって椅子に座って食事を摂るのが困難な方には、畳に座って食事が摂れるようにして少しでも食事を楽しんでもらえるようにする等、入居者が過ごしやすい生活の場の提供に努めている。 ・センター方式のアセスメントツールを使用し、入居者・家族の生活情報を詳しく把握して入居者個々の状況に沿った支援を行い、安定して活性化したホーム生活が送れるように取り組んでいる。 ・食事の時には、入居者同士の相性や食事のペースにも配慮しながら席を配置し、落ち着いて気持ちよく食事ができるようにしている。 ・職員のゆったりとした動きや落ち着いた声のトーンは、入居者の気持ちを安定させている。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にされた整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) ・職員は、入居者一人ひとりの個性や能力の把握に努め、自分のできる事ややりたいと意欲を持つ事をさぐり、全職員で情報を共有できるように記録に残し、ホームでの役割作りに活かしている。 ・職員は、入居者の尊厳を大切にしており、入室の際には必ずノックをして許可を得てから入り、失禁や食べこぼしの際はさりげない声掛けでプライドを傷つけないように配慮している。 ・不要な書類や記録は、シュレッダーに掛けて破棄し、個人情報が見失ないように留意している。また、入居者に関する電話での問い合わせには原則応じないようにしており、事務所には鍵を掛け、入居者の情報管理を徹底し、プライバシーの保護に努めている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	災害対策	○	
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
34	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
35	運営推進会議を活かした取組	○	
36	地域との連携と交流促進	○	
37	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け目標から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) ・法人全体で苦情処理委員会を設け、苦情受付表と報告書を作っている。問題が生じた場合は早急に検討し、対応等具体的に内容を記載して、再発防止・サービス向上に活かしている。 ・感染症対策マニュアルを作成し、感染症対策委員会で検討・研究して入居者・職員の健康維持に尽力している。 ・年2回、人事審査を行い、職員の適正を把握し、各職員の持っている力をより活かせる人事配置を行っている。担当者制を取り入れており、責任感を持つことにより職場の活性化を図っている。また、職員の健康管理にも力を入れており、健康診断の他に腰痛検査の受診を勧めている。職場の環境を整えることは、介護サービスの資質向上にも繋がっている。 ・職員の資格取得を支援しており、皆が協力して介護福祉士を始め認知症介護に必要な資格を取れるようにバックアップしている。 ・入居者の方に、心地良く安全に暮らしていただくため、実施された援助内容や方法の具体策が計画にそって実行されているか等評価できるように記録内容の充実を図っている。また、実行上の困難や問題点は無いが再度アセスメントを行い、職員間でケアの質が異なることがないように留意している。		